

冷 夏

長雨が降る。台風4, 5号が近づいて、消え去る。これは、これでよい。しかし、涼しい。

日陰の風が冷たいと感じはじめてから、久しい。東京にいて、北海道や北欧にいる気分になる。20日(6月)には、「涼しい」とmemoした。

あとで調べてみると、その日は、気象台が低温情報を出し、最高気温が最低気温平均値(30年間の)より、低い日であった。

仙台・水戸・横浜は19~22日、福島・宇都宮は20~22日、東京は20~21日が、これに該当した。最高気温が平年に比べ、10度前後低いということでもあった。“凶らずも遭遇した”とあれば、農業も大きな害を受けるであろう。

気温の変動は、西方にもないわけではない。ただ、総体に気温のレベルが高いので、低い方も話題にならないのであろう。

東方と西方の境を、どの辺に求めるか、と不図探してみると、矢張り関が原付近(伊吹・養老山地のあたり)という気になる。いまなお、新幹線も、冬の関が原には苦勞しているではないか。

そんなことを考えていると、気象観測の“医者”が、冷夏を心配している“患者”に、慰さめ調で、「昨年の冷夏のようになることは、まずない」と、長期の見通しを話しているのが、聞こえてくるのだが。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事 鈴木照磨〕

目 次 (第15巻第4号)

雑草の語源……………2

＜植物民俗研究家 深津 正＞

植調設立の舞台裏……………7

＜日本植物調節剤研究協会 戸荻義次＞

1. 除草剤ブーム……………7
2. 植調協会設立に動く……………9
3. 世話人会を開きはしたが……………9
4. 難行苦行で身のほどを知る……………11
5. 堀氏の協力と会長問題……………11
6. 設立後の会長代行……………12

アメリカオニアザミの発生生態と防除法……………13

＜北海道北見農業試験場 佐藤久泰＞

1. はじめに……………13
2. 北海道における発生……………13
3. 本雑草の発生生態……………14
4. 北海道における本雑草の分布
および発生面積……………15
5. 発生を認めた年次……………15
6. 発生場所と発生密度……………17
7. 防除法について……………18
8. 防除の実態……………18
9. まとめ……………20

外国文献抄録……………21

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者；笠原安夫氏〕